

【技術分類】 2-2-7 種別栽培方法／菌根性菌／イグチ科イグチ属

【技術名称】 2-2-7-1 ヤマドリタケ (*Boletus edulis*)

【技術内容】

1 生理・生態特性

日本に産するのは正確にはヤマドリタケモドキ(*B. reticulatus*)だが、広義のヤマドリタケに含めることもある。子実体からの菌株分離は比較的容易だが、継代培養で維持することはやや困難。ブナ科やカバノキ科の広葉樹林に発生する。

2 接種技術

子実体の管孔部を粉碎・濾過して得られた孢子懸濁液をアルギン酸ナトリウムを用いてゲル化して、菌根を持たないクヌギの1年生実生の根に接種したところ、均一な形態の菌根が大量に形成された。

3 林地栽培

天然発生地を維持すれば発生が持続する。手入れされた公園や庭園で発生することもよくあるため、下草の除去は発生の妨げにならないと考えられる。

4 容器栽培

今のところ成功例は知られていない。なお、純粋培養条件で子実体原基が形成された例がある。

【図】

図1 手入れの行き届いた樹木園内で苔の上に発生したヤマドリタケモドキ



出典：「立田山に出るきのこ」、立田山の森林、1997年、独立行政法人森林総合研究所九州支所著、
検索日 2006年2月27日、<http://www.ffpri-kys.affrc.go.jp/tatuta/kinoko/kinoko42.htm>

【出典／参考資料】

- 1) 「Methods for Cultivating Edible Ectomycorrhizal Mushrooms」、Mycorrhiza Manual、1998年、I. R. Hall、Y. Wang 著、Springer 発行、99-114 頁
- 2) 「*Boletus edulis sensu lato*: a new record for New Zealand」、New Zealand Journal of Crop and Horticultural Science 23 巻 2 号、1995年6月、Y. WANG、L. SINCLAIR、I. R. HALL、A. L. J. COLE 著、the Royal Society of New Zealand 発行、227-231 頁
- 3) 「立田山に出るきのこ」、立田山の森林、1997年、独立行政法人森林総合研究所九州支所著、検索日 2006年2月27日、<http://www.ffpri-kys.affrc.go.jp/tatuta/kinoko/kinoko42.htm>

【技術分類】 2-2-7 種別栽培方法／菌根性菌／イグチ科イグチ属

【技術名称】 2-2-7-2 イグチ属のきのこ (*Boletus* sp.)

【技術内容】

1 生態的、生理的特性

イグチ属のきのこは、外国産の小型の2種を除き栽培できないとされていたが、2003年、日本産の種名不詳の1種の栽培が可能となった。このイグチはクリイロイグチやサザナミイグチに似ているが種の同定に至っていない。夏に落葉広葉樹林に発生し、実験室ではコナラと菌根を形成する。

菌糸の成長温度は10~32℃で、最適温度は25℃、子実体の発生温度は25~26℃と考えられるが、これらの数値が実験に使われた菌株に限ったものか、この種に共通のものかは不明である。菌糸は窒素や鉄の要求性が高く、炭素源として単糖類の他にでんぷんもよく利用する^{1,2)}。

2 菌床栽培

精麦した粒状の大麦、広葉樹木粉、小麦粉を体積比2:3:0.3で混合し、含水率が65%になるように表1の組成の溶液を加えたものを培地として用いる。滅菌後菌糸を接種し、22℃の暗黒下で培養する。接種90日後、培地表面の菌掻きを行い、水を加えて数時間放置したあと過剰の水を棄て、日向土などの多孔質材に水を含ませて滅菌したもので厚さ1cm位に覆土する。照明のある26℃のきのこ発生室に移すと、移動後35~40日で成熟した子実体(図1)が得られる^{1,2)}。

【図】

表1 イグチ用添加液の組成

成分	濃度 (mg/1,000ml)
クエン酸	500
酒石酸アンモニウム	500
りん酸1カリウム	100
アセチルアセトン	10
塩化第2鉄	100
硫酸亜鉛	1.5
硫酸ニッケル	1
硫酸銅	0.5
硫酸マンガン	0.25
硫酸コバルト	0.25
塩酸チアミン	3
ニコチン酸	0.05
葉酸	0.03
ビオチン	0.05
塩酸ピリドキシン	0.005
塩化カルニチン	0.01
硫酸アデニン	0.03
塩化コリン	0.03

図1 500ml ガラスびんで菌床栽培したイグチ属の1種



出典：本標準技術集のために撮影者より提供を受けて掲載（撮影者 太田明）

出典：本標準技術集のために作成

【出典／参考資料】

- 1) 「Fruit-body production of an ectomycorrhizal fungus in genus *Boletus* in pure culture」、*Mycoscience* 44巻 4号、2003年8月25日、太田明著、日本菌学会発行、295-300頁

- 2) 「イグチ属の一種の菌根性きのこの人工栽培」、滋賀県森林センター業務報告書 37号、2004年11月、太田明著、滋賀県森林センター発行、25-30頁